

# エゾマツ



ヤマブドウ

*Vitis coignetiae Pulliat*

№54

2000. 10. 15

北海道ボランティア・レンジャー協議会

# 目次

1. 巻頭言 「ボランティア活動」について……………会長 川端 功治…………… (1)
2. 6月以降の活動…………… (3)
3. 新会員の声…………… (4)
4. キーワード (帰化植物)…………… (6)
5. 第8回自然観察会……………北原 武…………… (8)
6. 上砂川で何かを見つけてください……………本間 重吉…………… (10)
7. 郷土資料館主催自然観察会に参加して……………小林 英世…………… (11)
8. 私の一名山 (藻岩山)……………田村 允郁…………… (13)
9. 本の紹介…………… (17)
10. 野幌森林公園での観察会アンケート集計…………… (18)
11. 観察会研修会情報 (役員会報告)…………… (22)
12. おわびと訂正…………… (24)
13. 編集後記…………… (25)

## 「ボランティア活動」について

会 長 川端 功治

珍しい試みとして150名余の小学生を迎え、野幌森林公園を私達レンジャーが、案内することになり、夏も盛りの日が選ばれました。

新しい教育方針によると、教育の場を、大自然の環境に求めようとする傾向が強くなり、各学校ともそれぞれ検討中で、いずれ当協議会にガイドの要請がくのではないかとの、先生からの話題の提供がありました。

当日は幸い散歩日和に恵まれ、小学3年生は見知らぬオジサン、オバサンに従って粛々とスタートしたが、小鳥が囀り、蝶が飛び交うと、子供達は早くも打ち解けて「アレナーニ、コレナーニ」の質問が飛び交い、結構な楽しい道行きになったようでした。

懸念された事故も無く、これでは学級崩壊？等の起きようもなく、案内する方も、される方も、ともどもに自然の恵みに感謝しながら、自然観察を楽しんだ結果になりました。

サヨウナラの手を振って居たオジサン、オバサンも笑顔、笑顔に満ち溢れました。これはまさにボランティア活動の冥利につきる満足のひとときでした。

このようにして、私達の自然解説は、好評を受けながら、末永く続くものと信じて居ましたが、当会機関紙「エゾマツ」No.52の8頁にボランティア活動を軽蔑する記事が掲載されて居ます。

道東の動物王国で「むつごろう」と名乗る有名人が子供達とのトークのなかで「私はボランティアを信頼していません。何故ならば、ボランティアは無報酬を盾に無責任だから」と宣言したので、聞くに耐えずとして、会友佐々木氏はその場を去ったと記述しています。

この話題には何か衰れを覚えさせられます。流石の先生も歳には勝てず、老化

## 「ボランティア活動」について

会 長 川端 功治

珍しい試みとして150名余の小学生を迎え、野幌森林公園を私達レンジャーが、案内することになり、夏も盛りの日が選ばれました。

新しい教育方針によると、教育の場を、大自然の環境に求めようとする傾向が強く、各学校ともそれぞれ検討中で、いずれ当協議会にガイドの要請がくのではないかとの、先生からの話題の提供がありました。

当日は幸い散歩日和に恵まれ、小学3年生は見知らぬオジサン、オバサンに従って粛々とスタートしたが、小鳥が囀り、蝶が飛び交うと、子供達は早くも打ち解けて「アレナーニ、コレナーニ」の質問が飛び交い、結構な楽しい道行きになったようでした。

懸念された事故も無く、これでは学級崩壊？等の起きようもなく、案内する方も、される方も、ともどもに自然の恵みに感謝しながら、自然観察を楽しんだ結果になりました。

サヨウナラの手を振って居たオジサン、オバサンも笑顔、笑顔に満ち溢れました。これはまさにボランティア活動の冥利につきる満足のひとときでした。

このようにして、私達の自然解説は、好評を受けながら、末永く続くものと信じて居ましたが、当会機関紙「エゾマツ」No.52の8頁にボランティア活動を軽蔑する記事が掲載されて居ます。

道東の動物王国で「むつごろう」と名乗る有名人が子供達とのトークのなかで「私はボランティアを信頼していません。何故ならば、ボランティアは無報酬を盾に無責任だから」と宣言したので、聞くに耐えずとして、会友佐々木氏はその場を去ったと記述しています。

この話題には何か哀れを覚えさせられます。流石の先生も歳には勝てず、老化

を超えて、老醜を感じさせます。

何かボランティア活動で、お気に召さない場面に出会ったら、その場でアドバイスするなり、忠告して是正を求めるのが常道であって、プロでも背負うべき社会責任なのです。その跳ね返りが怖くて子供達とのトークの場を選んだとすれば卑怯の謗りを受けなければなりません。別の見方をすれば、自分の存在価値を強調して動物王国の収入の増加を図ろうとするなら、ひんしゅくを買い、却って逆効果になることをおもい知るべきです。

それは、最近の民放の放映で同先生の起こした事故報道で、さもありませんと思わせる場面があり、再現してみるとテレビに踊らされている先生の本質が見えます。南方のライオン・虎等、猛獣王国を訪問中、猛獣と言えども親愛をもって接すれば親愛の情を示すものなりとして、接近したところガブリと手を噛まれ、救急車を呼ぶ大騒ぎになりました。警備していた飼育係は責任を感じているのが哀れてした。

運ばれる途中、噛み契られた指は食べられて仕舞って縫合できない旨告げられると「動物は私と離れたくなかったのです」と宣言したのには呆れました。

流石は動物王国の首長らしいと褒め賛えたテレビの報道は、テレ隠しの言葉遊びで、マスコミに踊らされた哀れな老ピエロにしか見えませんでした。

次元が替わりますが、火山爆発に馳せ参じたボランティアはスコップの使い方が下手でも、被災者は涙を流して感謝して居ります。時代は変わりつつあります。プロと言えども基本にボランティア精神が無ければ存在すら許され無くなります。勿論その精神基盤は人類愛でなければなりません。

私達を指導して呉れる先生方は懇切丁寧で尊敬を集めて立派です。そして生徒には先生を選ぶ権利があります。唯我独尊、我がまま一杯で高慢な先生は誰の選択肢にもありません。

だれがどうあろうと、私達レンジャーは手を取り合って、堂々と胸を張りながら我が道を邁進しましょう。

## 自然との共存 日常の実践から!

今年度のキャンペーンスローガンは総会議案書にも提示しましたように「自然との共存、日常の実践から」と決めました。昨年度までの「自然との共存、21世紀に向けて」を発展させたこのテーマを基にボラレン活動を進めていきたいとおもいます。

私達の活動は常に実践的でなければなりません。それ故、私達は行動的でなければなりません。行動のレベルは個人的であったり、グループ活動であったり、会全体の活動であったりしますが、自分の興味や満足であってはなりません。多くの人々に対して、自然との共存のありかたについて啓発していくことが行動的ということにつながっていくことだと考えます。行動イコール実践との考えに基づいて私達の行動を進めていきましょう。

### 6月以降の活動

- 6月18日(日) ・ 恵庭自然観察会 10:00~  
集合 恵庭公園駐車場(下見 6月17日)
- 7月9日(日) ・ ニセコ自然観察会 11:00~14:00  
集合 五色温泉駐車場
- 7月16日(日) ・ 夏の森の観察会 10:00~14:30 (協力参加)  
集合 野幌森林公園大沢口(昼食用意)
- 7月23日(日) ・ 真駒内自然観察会 10:00~12:00  
集合 地下鉄真駒内駅
- 8月10日(木) ・ 8月の森の観察会 10:00~12:00 集合 開拓記念館
- 8月27日(日) ・ 利根別自然観察会 10:00~12:00  
集合 利根別大正池
- 9月10日(日) ・ 野幌自然観察の集い 10:00~12:00 集合 森の自然教室
- 10月15日(日) ・ 秋の森の観察会 10:00~14:30 集合 野幌森林公園大沢口

# 新会員紹介

今年度、厚岸町でボランティア・レンジャー育成研修会が開催されました。本会から、五十嵐一夫副会長が講師として、また小林英世研修部長が地方との交流や研修会の状況把握のため参加しました。

育成研修会の修了者で、本会の趣旨に賛同され入会された方は下記の9名です。新しい仲間として、観察会や研修会での活躍と、本会への積極的な参加を期待します。

久志本 秀夫	札幌市厚別区	久志本 アイ	札幌市厚別区
中西 敏雄	江別市	井塚 善雄	上砂川町
富山 光太郎	斜里町	高橋 公栄	斜里町
速見 啓悟	釧路町	中嶋 弘美	厚岸町
門村 徳男	鶴川町		

釧路町 速見 啓悟

釧路湿原の側に住んで60余年。大切な自然を後世に残すことは大切なことです。このことを特に青少年に関心を持ってもらうように努めたい。自然を勉強し関心を持ってもらうことは、特に環境問題に関心を持ち、21世紀を背負っていく人の育成につながる事と微力を尽くしたいと思います。

自分自身も一層勉強したいと思っています。



山歩きを始めて20数年になる。花や木の名前がわからない、小鳥の鳴き声も聞き分けることができなかった。

自然を楽しむには、植物や動物の名前を知り、その生態を知ることが一つの手段と思っている。最近各地で開催される自然観察会にも参加し、知識の吸収に努めている。

当育成研修会を通じて、レンジャー協議会に加入させて頂いた。これを機会に、自然の楽しさを人にも伝えることができるようになればと、思っている。

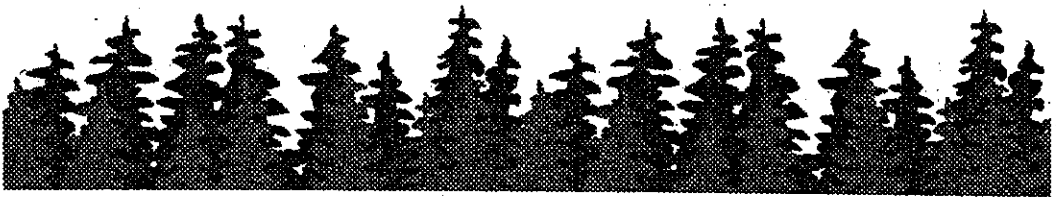
札幌市厚別区 久志本 アイ

この夏、はからずも、皆様の仲間入りをさせて頂くことになりました。

ツチアケビ、オニノヤガラ、ノッポロガンクビソウ等など、野幌森林公園での下見会で、初めて教えていただき、あらためてこの森に魅了されました。

この豊かな森の自然が、未来へ続くことを念じ、観察会の下見で、楽しみながら学習をし、あせらず永い道のりを歩くことにします。

諸先輩のみなさん、どうぞ気長に、御指導よろしくおねがいたします。





# キーワード



## 帰化植物

イタドリは日本においては、食用にしたり薬用にしています。春の若芽をヌタにしたり「痛取」の名の通り、痛みを取る薬草として活用しています。

このイタドリは江戸時代、長崎出島のオランダ商館の医師シーボルトが日本から欧州へ持ち帰りました。ですから、19紀半ばにヨーロッパに渡来したと断言していいでしょう。当時ヨーロッパでは園芸業の珍種ブームにのり、各地で高値で取引されたといえます。

8月31日付朝日新聞によると、日本からヨーロッパに渡ったこのタデ科の植物イタドリが、現在各地で猛威をふるっているそうです。ベルギーのブリュッセル市は市民に駆除を呼びかける冊子を作成したり、英国では昨年、生態系操作で根絶を目指す「イタドリ同盟」が結成され、日本でイタドリの天敵を探し出す計画が進んでいるそうです。

日本に2種あり、一つはイタドリ（葉はやや小型、裏面はほとんど粉白を帯びない）そしてもう一つはオオイタドリ（葉は大型、裏面は粉白色となる）です。

日本の野生植物Ⅱ（平凡社）によると、イタドリは「…茎は斜上または直立し上部は多くの枝に分かれ、…葉は有柄、広卵状楕円形～広卵形、…総状花序は円錐状に集まり多くの花をつける。北海道～九州・奄美諸島、朝鮮、中国に分布」とあります。北海道に自生するオオイタドリについて北海道の花（北海道大学図書刊行会）によると「…雌雄異株。根茎は長くはい、茎は太く直立、中空で筋がある。上部は斜上する。葉は…両面無毛、裏は特に粉白をおびる。…」とありますが、根茎については地下1 m以上の深さで、地下茎が分かれて広がっていく強い生命力で多くの在来種をあっという間に駆逐していくので、欧米では「最も有害な帰化植物」のレッテルを張られています。

私達の感覚の帰化植物と言うとセイヨウタンポポ、オオアワダチソウやセイタ

カワダチソウ等、嫌われる植物群をイメージしますが、日本から外国に渡っていった植物もまた嫌われものとは皮肉なことです。

イタドリといいオオアワダチソウといい、人々が海外の国と交流が盛んになるに従って、何等かなかたちで人と共に渡ってきたわけで、帰化植物たちが悪いわけではなく、人間の勝手なのかも知れません。

## 会費納入のお願い!

多くの会員の皆様のご協力によって、今年度の会費が納入されていますが、まだ未納の会員の方々もいらっしゃいます。会費納入をお忘れてしたら、納入のご協力お願いいたします。

なお、会費に関する問い合わせ先

067-0064 江列市上江列93-4

会計担当 今野 義也 (TEL011-382-9707)

## 原稿募集中!

会報誌「エゾマツ」に掲載する原稿募集中です。シリーズで掲載されている「私の一名山」、各地の情報、自然や環境に関する主張、エッセイ等々を投稿ください。字数や形式は自由です。また、手書きでもワープロ打ちでも結構です。ご協力ください。

原稿に関する問い合わせ先並びに原稿送付先

011-0020 札幌市北区北20条西8丁目18

広報部長 稲葉 孝徳 (TEL011-736-2585)

## 第8回自然観察会 一余市岳一

小樽市 北原 武

(12. 9. 23 和バス前 9時30分集合 曇り 参加者23名 解説員1名)

### 挨拶要旨

- 1、山道の状況、怪我の注意、
- 2、今日の見所、赤、黒等の果実(種子)、秋の装い等、
- 3、レンジャーが少ないので応援依頼、及び紹介(佐藤、田淵氏の2名)
- 4、山道は、列が長くなるので、植物名外必要事項は口伝えで流すこと、協力依頼、

駐車場以上を説明お願いして、ゴンドラに向かう。かねて、打ち合せの通り、ゴンドラ乗車券の団体扱い(30名、2割引で往復680円)折衝を、慣れた佐藤さんに依頼、無事成立して6名づつが乗り込む。途中、樹木の頭越しに、沼が見え隠れするのが、見えた。ヤシオ・レイクというシャレた名前は後でわかった。

終点で手洗いを済ませ、脇のほうで登山届けに記帳して出発となる。10時20分、登山口は広場の東側にあり、看板が立っている。その最後尾にカムイ・ミンダラの表示がある。キロロに精通している田淵氏から、そのアイヌ伝説を皆に解説してもらう。道は目指す余市岳とは90度も違う真東の方向へ延びている。粘土質で幅の広い道には車両の輪形が残り、所々荒れてはいるが、平坦な道が続く。まさしく飛行場、一昔前、山スキーの人達が、よくここで方向を見失った話を聞く。ウォーミングアップにはもってこいの地形。道端の赤い実はマイズルソウ、イワツツジ、そして、ナナカマド等、まさに、山の秋の真っ只中、イワツツジについて、知る人は少ない。薔びた1粒を皆にまわすと、その甘い香が何時までも消えないのを、不思議がることしきり。マイズルソウにも赤いのと、紫色の斑模様の実があるのも、不思議の種。道端の地表面あたりに点々と続く白い粉、自然界は何時も不思議に満ちている。それが、人をひきつける。不思議は解説し得ないし、又、なし得るものでもない。それぞれが、心の中に自然不思議物語を書き続けてくればよいのである。ハイマツは余市岳が目前に近付いた頃、笹わらに、点々と頭をもたげている。ハイマツが出てくると、高山にきた実感を受け何となし、嬉しくなる。マツの枝下に茶色のキノコ、草を刈った道端には、紅葉したハナヒリノキ、赤実鮮やかなツルシキミ等、先頭の私から、口伝えで順次後え流す。声は、話し声の中に消えてゆく。後で聞くと、途中で名前が変わったり、名前と植物が変わったり、又消えてしまうものもあつたりで、人のまとまりは、なかなかむづかしいものと思ひ知らされる。

元からの登山道合流点の先に白い木杭が立っている。その高見で小休止をとる。これから始まる胸突き八丁に備え、腹拵えと身繕いをする。11時20分、歩き初めてから、丁度1時間、ウォーミングアップは十二分になされ、足腰のすみづみまで油が回ったところで出発となる。

急坂に取りついて一汗かいた頃、山歩きの自己流手法を説く、

- 1、足の運びは、ガニ股状で、歩幅は「負荷」の強弱により調整。
- 2、ガニ股歩きの際、足の動きに合わせて体を左右前後に揺する(重い荷を引く牛馬のように)
- 3、足の運びと呼吸(心臓の鼓動)を合わせる(調和をとる)。

その外、自分が気付いた最も楽で安全な手法を、見いだすのが好ましいと思う。

此等の内一つでも、二つでも、会得する事で、山歩きはかなり楽になる筈である。ただ、自己流手法をうまく伝えられないのが、難点である。

余市岳最初で最後のこの登りは、標高差約300㍍、最低鞍部はヤマハンノキ、ヤナギ類、次に、カエデ類、ダケカンバ、ミズナラ、ナナカマド等、という具合。ヤマハンノキの幹がオブジェのように曲がりくねって道をふさぎ、その下に見るも綾なるルリ色の球、ツバメオモトの実である。一本から2~3個、時には6個~8個の実、楚々とした美しさが人々の目を釘付けにする。黒いのもある。この付近ツバメオモトの多い所。つまり適度の湿気と日陰及び、土地条件によるのだろう。樹下はシラネワラビ外シダ植物に混ざってミミコウモリ、シラネアオイ等の湿性植物、例にならって後え口伝えて流す。声は順に小さくなって、ざわめきの中に消える。先ほどから、植物の名前がさっぱり覚えられないと、こぼしている赤いシャツの女性、ツバメとコウモリは鳥だからねえ、と自信を見せながら、前からきたゴゼンタチバナに戸惑い、後え流したとたんに名前も一緒についていっちゃったんだから…と言っているのが聞こえる。。いよいよ根曲りの激しい広葉樹林帯に、暫く途切れていたハイマツが再び混じってくる。マツの匂いがツンと鼻をつく。小高い所で振り返ると、定山溪天狗が鎌首をあげている。その向こうに神居岳、烏帽子岳、迷い沢等、その奥には箸をいっぱい建てた手稲山が、その又奥には増毛連山が覆んでいる。南に向かうと長尾山、無意根山が並び、その奥に札幌岳、空沼岳等々、ハイマツは順に勢力を張り、辺り一面を覆う。背丈も伸び道をふさいでいるので、掻き分けながら進むようになる。もう、視界はきかず、障害物をかわすだけである。地面は分厚い苔類に覆われ、その隙間から痩せたゴゼンタチバナ、ミツバオウレンなど、ハイマツの幹まで覆う大きな苔の何種類か、暗く湿った林の中は、一瞬原始の森を思わせる。森を抜けるとハイマツは背を低め、傾斜も緩み頂の近づきを知らせる。暗いハイマツ帯から一気に明るい草原に入る。タカネナナカマドの赤い実が荒れた地面に咲き乱れている。ハイマツの白骨化した幹が一樣に下方えなびいている。ここは、一登山者の火の不始末による山火事後の惨状である(昭和49年7月出火、被害面積約1㍍、原因不明、森林保護を訴えて欲しい旨、余市森林事務所の言)。

急斜面に取りついて此処まで、湿性から乾性の広葉樹林帯へ、大型から中小型ハイマツ林へといった林相の変化は、短区間ではあるが、見応えがある。被災地の小高い丘には、地蔵さんがあり、銀貨が積み上げてある、横に並んで碑が立っている。此処が頂上と思えるがさにあらず、頂上は約500㍍西方向にある一等三角点の地点である。斑模様の被災地も罹災以来25年。大きいハイマツこそ見当たらないが、緑は少しづつではあるが確実に復旧しつつある。エゾイソツツジ、オオバスのノキ等ツツジ類、ヤナギ類、キイチゴ類、ハイイヌツゲ等その下には、コケモモ優先の小型草木類。三角点付近は被害を免れ、ハイマツの向こうに均整のとれた羊蹄山が黒々と、裾はブド一色かすみ霧の中に消えている。爽快な光景である。頂上着12時20分、ゴンドラ終点から2時間。昼食の前に人数確認の追番連呼をする。佐藤さんに習い一人づつ声を繋いでゆく。余市岳には、もう一つ観察ポイントがあるが、今回は時間の都合で割愛、山頂南東方面に沼のあることの説明にとどめた。下りは、同じ2時間で山頂から出発点の駐車場まで。

全員が無事予定のコースを消化出来たことは、有り難いことである。少ない解説員で心配はあったが、何回も出席され、山にも慣れた佐藤昭雄、田淵武史両氏の援助を得ることができたこと、事前の下見を2回行い、佐々木幸夫氏の適切なアドバイスを受けたこと等、初めて御礼を述べる次第である。(終)

## 上砂川で何かを見つけてください

上砂川町 本間 重吉

慌ただしい世相のなかでさわやかな自然の多き緑の中で憩いの一時を過ごそうと想われる方々は多いのではないのでしょうか。

上砂川町は周囲が標高約150メートルの山々に囲まれ、清らかな山水に恵まれた鳥類動植物の宝庫で自然観察には最適な町と一人推奨をしております。

上砂川パンケの湯（旧上砂川岳温泉）を起点に前のスキー場西側の道を上ればオオイヌタデ、サワアザミ、オオバセンキュウ、アマニュウ、エゾコウゾリナを始め80種以上が目につき、400メートルの急坂道も気にならず上り切ります。また、道道西芦別線を温泉裏にかかっている歌志内市上砂川町境界線橋をわたり終わってすぐ右に折れ水源の沢を進めば、カラマツ、ミヤマハンノキ、ウダイカンバ、オニグルミ、ミズナラ、マタタビ、サンナシ、ノブドウ、エソノギシギシ、ミゾソバ、ヤブニンジン、ミズヒキ、トリカブト、オドリコソウと、約550メートルの道のりは珍しい草木に気をとられて進めば疲れも忘れ、左側の土留めの石垣上には大岩が留まり、右側にはパンケの沢に覆いかぶさるような断崖に足を止めれば、根を岩に食い込ませて生長しているトド、ハンノキ、ガマズミ等は人生の世情と変わりないように思われ、春はツツジ、秋は紅葉と楽しむ事ができます。更に歩を進めますと自慢のできる水源地自然公園にたどり着きます。周囲が山々に囲まれ静かな水のせせらぎの流れに耳をすまし目を北方に向ければ、7500万年～6500万年前の中生代、白亜紀のアンモナイトや恐竜などが栄えた時代の堆積層とふれてみたい気持ちになります。

以上簡単に申し上げましたが、疲れた体をパンケの湯でいやしてお帰りになられるようお勧めをいたします。尚、まいもって☎0125-62-3951へ電話くだされば随行いたします。

# 郷土資料館主催自然観察会に参加して

恵庭市 小林英世

9月2日恵庭市郷土資料館主催の観察会があったので参加してきました。あいにくの雨模様でしたが観察会開始の9時には雨も上がりました。参加者は3名、講師と学芸員の計5名と言う、やや淋しい感じの観察会となりました。今回のテーマは宅地造成後の遷移の過程と、その中に残された森と言うテーマで行なわれました。観察会の場所は、今恵庭駅の駅裏開発で大々的に造成されている黄金町です。この場所は、文教短大に接して近年遺跡発掘で有名になったカリンバ遺跡のある場所です。まずひとつとおりの遷移の過程で現れる植物を見る。ちょうどオオアワダチソウとセイタカアワダチソウの花の入れ替わり時期だったため、二つの植物の違いをよく観察することができました。オトコヨモギ、ヒメムカシヨモギ、エノコログサ、キンエノコロ、オオイヌタデ、イヌタデと言った道端によくある植物の観察となりました。ハイミチヤナギの白い花もよく見ると可憐できれいな花なので、新たな感激を覚えた次第です。また、旧カリンバ川の水源地を囲うかたちで黄金の森と呼ばれる所があり、水辺の近くでもあり、キツリフネ、ツリフネソウ、ミゾソバ等が群落を作って咲いていました。ここはかつて大きな森が形成されていたのですが、団地環状通りを駅裏から恵庭バイパスへ通す為に切り開かれ、森が分断されミズバショウの宝庫だった所が、水脈を断たれた形となり水の枯渇を招いたため、急きょ暗渠を入れ水脈を確保し、ミズバショウの復元を図ったまでは良いのですが、ここのミズバショウの群落を売物にし観光客誘致のため遊歩道を設けることにしたと言うのですから驚きです。もうすでに遊歩道建設の為の下草が刈られ、杭までうたれていました。森が分断され大きな攪乱が出来、今後この森がどの様に遷移して行くのかこれからのの関心事となりました。

ここで、恵庭市郷土資料館が出したカリンバ3遺跡についての資料を載せたいと思います。

## 【カリンバ3遺跡の発掘地点】

カリンバ3遺跡は、恵庭市黄金226番地周辺にあります。遺跡の面積は、約3万3千㎡と推定されています。発掘調査は、黄金土地区画整理事業に伴って恵庭市教育委員会が行ないました。JR恵庭駅の北方約800mの「団地中央通り」建設予定地内で、平成11年5月11日から11月30日まで面積約3000㎡を調査したものです。

## 【代表的な遺構と遺物】

カリンバ3遺跡は縄文時代早期から近世アイヌ期にかけて断続的に利用され

た遺跡です。主なものは、竪穴住居跡と土墳墓です。今から6000～2500年前の縄文時代には住居と墓地として利用され、約1200～1000年前になって集落に利用されました。また、500～300年前になるとアイヌの人々の集落(コタン)になりました。

ここでは、話題になっている縄文時代後期の土墳墓と副葬品について簡単にふれてみます。この時期の土墳墓は35基を数え、漆製品や玉が全体の約7割に副葬されていました。土墳墓の形状は楕円形が一般的で、長径1～から1.5m、短径0.5～1m、深さ0.3～1mのものが多くを占めています。遺体の埋葬方法は、副葬品と歯の検出位置から西側に頭位をもつ屈葬と考えられます。ほとんどの土墳墓に赤いベンガラが数センチの厚さでまかれていました。出土した漆製品は合計94点に達し、櫛44点、腕輪20点、腰飾りの紐1点、髪飾りの輪12点、そのほか首飾りや紐状のものなど、これまでに知られていなかった様々な漆製品が発見されました。

今回の調査で特筆されるのは、直径約2.5m、深さ1mの大型の合葬墓、直径1.7m、深さ90cmほどの合葬墓3基が検出され、壕底面から漆塗りの櫛や腕輪など多くの副葬品が出土したことです

縄文時代早期から6000年、その間に樽前山の噴火、はたまた幾度となくあったであろう洪水、そして現在に到り同じ場所に黄金と名を変えニュータウンが出来る、人の入れ替わりがあり攪乱があり人類の遷移の過程を垣間見た観察会でした。



32. セイタカアワダチソウ (ARIZONA)



33. オオアワダチソウ (ARIZONA)

# 私の一名山

—藻岩山—

札幌市東区 田村 允郁

札幌の中心部より南西部方向に目を向けると、ゆったりとした形の山を眺めることができます。札幌に住む人々であれば誰でも知っている「藻岩山」です。

標高531mのこの山は、スキー場のエリアを除き、多くが落葉広葉樹帯に覆われています。登山道は4コースあり、頂上まで車で登ることができる観光道路も整備されています。また、ロープウェーも運転されていて、頂上からは整然とした札幌の街並みが見下ろすことができ、いつも観光客で賑わっています。

札幌市内の小中学校の遠足やハイキングコースの利用も多く、頂上で弁当をひろげている子どもたちによく出会います。

小学生の頃より札幌に住む私にとって大変愛着のある山で、小学校時代の登山遠足から始まり、大人になってからも、1～1.5時間で登ることができるため四季を通じて散策を兼ねた登山をしてきました。登山回数を記録してはいませんが、百回を超えるオーダーになっていると思います。

藻岩山はアイヌ語でインカルシベと呼ばれていましたが、「いつもそこに上がって見張りをするところ」との意味があり、アイヌの人々にとっては見張りをする山であると共に尊い神の山であったとのこと。明治初期、インカルシベ山はアイヌ語の発音「笑柯山」とか、アイヌ語の意味「眺臨山」という字があてられていましたが、次第に藻岩山と言われるようになってきました。

ところが「モイワ」というのはアイヌ語で「小さな山」という意味で、本来は藻岩山の隣の山「円山」を指しての呼び名だったといえますから複雑です。

「北海道蝦夷語地名解」（永内方正）によると、モイワについて「小山。札幌神社の小山なり。和人之を円山と称し、却て『インカルシベ』を『モイワ』と呼ぶは最も誤る」と記述しているように、どこかで、円山が藻岩となっていったのでしょうか。

1919年、日本では天然記念物保存制度ができます。藻岩山（円山も含め）の森



林は、1921年、北海道で第1号の天然記念物に指定されています。このように、藻岩の森が貴重であると認められたきっかけは、1892年日本の各地を訪れたアメリカのハーバード大学、樹木学者サージェント教授に負うところが大きいと言われています。教授によって、藻岩の森の樹種の多さは世界でも珍しいとの折り紙をつけられ、天然記念物に指定されるきっかけになりました。

話を登山コースに戻します。登山コースは4本つけられています。

一つは中央区慈啓会病院横からのコースです。新善光寺の初代住職の大谷超師が藻岩山を霊場として西国三十三霊場の観音安置のため、明治十九年に登山道開削したのがこのコースです。原始林の面影をのこす、ハリギリやカツラの巨木を見ながら歩をすすめる登山道の脇には苔むした石仏がひっそりと安置されています。途中、エゾリス、シマリス、野鳥のための餌台の前で休憩をとると、愛らしい姿を見せてくれます。頂上直下の急斜面を登りきると展望台のある頂上です。

二つ目のコースは旭山記念公園から登り、途中から慈啓会コースに合流しますが、合流点までいくつかの登り返しがあり、健脚向きかも知れません。

三つめのコースは、市民スキー場からのコースです。スキー場の駐車場下にある「ロッジ雪友荘」横からコースが始まります。急な登山道を登っていくと視界が開けスキー場に出ます。ゲレンデ内のコースを登りきると、ロープウェイ駅舎NTTの電波塔、藻岩神社の広場にでます。神社内にはスキーを北海道に広めたオーストリア軍人のレルヒ大佐も祭られているそうです。広場から山頂リフト横を登っていくと頂上です。

四つ目は、私のおすすめ小林峠コースです。おすすめの理由は登山者が少なくゆったりと歩を進められること、そしてコース上には意外と野草の種類が多いことです。小林峠の標高は300mですから楽勝コースと考えがちですが、登り下りもあり、そこそこの距離がありますので、登山の気分を味わえます。このコースも途中から慈啓会コースに合流します。雪解けの頃のフクジュソウ、エゾノエンゴサクに始まり、エンレイソウ、ミヤマエンレイソウ、ヒトリシズカ、そしてオオタチツボスミレ、フッキソウもコースの両脇のあちこちに見られます。

夏から秋にかけて見られる野草を列記すると、

シラネアオイ、ヤマシャクヤク、イチヤクソウ、ベニバナイチヤクソウ、サイハイラン、ノビネチドリ、オドリコソウ、フデリンドウ、ルイヨウボタン、ツクバネソウ、クルマバツクバネソウ、マイズルソウ、ウメガサソウ、クルマユリ、オオユバウリ、チゴユリ、コヤブタバコ、ヤナギラン、マムシグサ、オククルマムグラ、クルマバソウ、ウラジロエゾイチゴ、ノウゴウイチゴ、チゴユリ、オオアマドコロ、コンロンソウ、イケマ、タニギキョウ、タツナミソウ、キツリフネ、ツリフネソウ、タツナミソウ、キンミズヒキ、エゾイラクサ、ミズヒキ、ヨツバヒヨドリ、ハエドクソウ、アキノキリンソウ、エゾノコンギク等、色々な野草の観察ができます。アキノキリンソウの黄色の花とコース沿いにツルリンドウの赤い実が出現すると秋がやってきます。小林峠コース登山口の道路をはさんだ反対側は、砥石山登山口にもなっています。小林峠コースは、静かな山道をゆったりと歩くのには、うってつけてしょう。

ところで、藻岩の森林群は三つの特徴があるといわれています。

第一の特徴はカツラ林の発達です。カツラ林は藻岩山の軍艦岬の登山路の沢に沿って、かなり太い固体からなる群落を見ることが出来ます。

第二の特徴は藻岩山中腹に見られるエゾマツ・トドマツ・オクヤマシダ型の森林です。かつては、藻岩の森はもうすこし黒い山であって、ドイツの「シュバァルツバァルト」すなわち「黒い森」のように、それは針葉樹の多い山だったそうです。このように一つの山に冷温帯広葉樹と北方針葉樹林の要素を見ることが出来ます。

第三の特徴は樹木学者サージェント教授が驚いたように、山の大きさや高さの割に樹木の種類が大変豊富なことです。

藻岩山の木本類の調査によると、高木類41種、低木類54種、つる植物12種で合計107種を数えます。北海道全体で木本類は一般的に言って209種、高木類78種、低木類131種、つる植物17種だと言われているので、藻岩山にはかなりの木本類が分布していることがわかります。

藻岩山はまた、北海道大学の前身、札幌農学校時代には植物学の実習地や植物採集地であったところから、藻岩山やその周辺の地名にちなんだ植物が結構あります。

- ・モイワナズナ…明治14~15年ころ宮部金吾博士によって藻岩山頂上付近の断崖で得たと言われていたのですが、はじめカラフトナズナの名が与えられました。アブラナ科イヌナズナ属です。
- ・ヤマハナソウ…むかしの山鼻村の名にちなんで宮部金吾博士によってつけられた植物です。ユキノシタ科ユキノシタ属の一種で、モイワナズナと同じに日当たりのよい岩地や崩積土壌に群生します。
- ・モイワボダイジュ…オオバボダイジュの葉の裏ほど毛はなく、そのため葉裏が青緑色に見えます。藻岩山麓で得られたところから命名されました。
- ・モイワシャジン…シャジンの一種につけた名です。ツリガネニンジンに近い植物で、夏から初秋にかけて紫色のつり鐘状の花を咲かせます。
- ・モイワラン……サイハイランの葉を欠いている植物で、唯一本の花茎上に花をつける性状からシジクラン（紫軸蘭）と呼ばれることもあります。藻岩山の植物研究家、井上藤二氏による命名と言われています。

藻岩山は、百名山に名を連ねている山でもなく、標高が千メートルを超える本格的な登山対象の山でもありません。しかし、札幌に住んでいる人達にとってはあまりにも身近な山です。それ故、気軽に登ることができ、山もやさしく受け入れてくれます。体力の衰えが気になる年齢になると、藻岩山のような山に親しみがわいてきます。このような山は道内各地にあることだと思います。

地元の人だけが知っている山、隠れた山、ゆったりした気分で登れる山、体力と相談しながら登れる山、そんな山の情報交流をしませんか。

参考引用文献 さっぽろ文庫12 藻岩・円山（北海道新聞社）



道新スポーツ 編

## 北海道の百名山

北海道新聞社 2000. 5. 17 発行

定 価 1600円+税

研修部長、小林英世氏の提案によって「私の一名山」シリーズが続けられていますが、広報部としては、会員の皆さんの積極的な協力によって、毎号を飾っていきたいと考えています。

最近、山への関心と登山ブームが広がっています。特に、中高年の関心が高まっていることは、自然との共生の大切さをアピールする役割を担っているものだと思うのです。

この登山ブームの火付け役は、ご存じ深田久弥の名著「日本百名山」ですが、お読みになった皆さんも多く、この書に啓発され登山を始めた方も多いはずです。

本著はこの「日本百名山」にならって、平成10年4月14日から12年3月28日までの毎週火曜日「道新スポーツ」に掲載されたものを「北海道の百名山」の名で出版されたものです。百名山の選考基準は、①標高は500m以上、②山格・特色、③歴史的由緒、④地域とのかかわり、⑤難易度等と、執筆者はこれらの山に縁がある方々によって構成されています。

山の素晴らしさは山に登ったものでなければ語る事ができない言われていますが、ここ数年の登山ブームによって、山が人を受け入れる許容範囲をこえ、その結果として、自然破壊や環境汚染が起きています。本著の前書きにも次の一文が載っています。「…しかし一方で、山に登る人が増えれば増えるほど汚染が心配されます。自然に優しいエコ登山が求められます。この本の刊行を機会に、山の自然をどう守るか、回復させるかを読者の皆様と一緒に考え、そうした運動を繰り広げていきたいと考えています。」

北海道の山々がいつも私達を優しく受け入れてくれる付き合い方を考えていく手掛かりを本著に求めていきたいものです。

# 野幌森林公園での観察会アンケート集計

野幌森林公園事務所より、平成11年度の観察会のアンケートの集計が送られてきました。これらの結果を本会の活動に生かしていきたいと考え掲載します。

総数		248人	
問	返答	合計	割合
1 あなたの性別は？	1 男	114人	46.0%
	2 女	134人	54.0%
	無回答	0人	0.0%
2 あなたの年齢は？	1 10代未満	3人	1.2%
	2 10代	5人	2.0%
	3 20代	11人	4.4%
	4 30代	11人	4.4%
	5 40代	22人	8.9%
	6 50代	87人	35.1%
	7 60代	82人	33.1%
	8 70代	25人	10.1%
	9 80代以上	2人	0.8%
	無回答	0人	0.0%
3 あなたの住所は？	1 厚別区	61人	24.6%
	2 白石区	12人	4.8%
	3 豊平区	23人	9.3%
	4 清田区	11人	4.4%
	5 中央区	20人	8.1%
	6 北区	23人	9.3%
	7 南区	9人	3.6%
	8 東区	11人	4.4%
	9 西区	6人	2.4%
	10 手稲区	7人	2.8%
	11 江別市	46人	18.5%
	12 北広島市	4人	1.6%
	13 恵庭市	2人	0.8%
	14 その他	13人	5.2%
無回答	0人	0.0%	
4 今日の観察会を何で知りましたか？	1 新聞	71人	28.6%
	2 テレビ・ラジオ	12人	4.8%
	3 広報紙等	5人	2.0%
	4 案内チラシ	41人	16.5%
	5 知人・友人から	37人	14.9%
	6 北海道ウォッチングガイド	76人	30.6%
	7 その他	7人	2.8%
	無回答	0人	0.0%
5 今日の観察コースの距離はどうでしたか？	1 短すぎる	52人	21.0%
	2 ちょうどよい	190人	76.6%
	3 長すぎる	3人	1.2%
	無回答	2人	0.8%
6 今日の観察会の所要時間は？	1 短すぎる	47人	19.0%
	2 ちょうどよい	192人	77.4%
	3 長すぎる	4人	1.6%
	無回答	4人	1.6%
7 今日の観察会の解説内容は？	1 やさしかった	53人	21.4%
	2 すこしやさしかった	21人	8.5%
	3 ちょうどよい	159人	64.1%
	4 すこし難しかった	14人	5.6%
	5 難しかった	0人	0.0%
	無回答	2人	0.8%

問	返答	合計	割合
8 今日の観察会を楽しんでいただけましたか？	1 おもしろかった	194人	78.2%
	2 少しおもしろかった	31人	12.5%
	3 ちょうどよい	20人	8.1%
	4 少しつまらなかった	1人	0.4%
	5 つまらなかった	1人	0.4%
	無回答	1人	0.4%
9 今度はどのような行事があったら良いですか？	1 地形や地質、化石の観察会	58人	23.4%
	2 植物観察会	163人	65.7%
	3 昆虫観察会	61人	24.6%
	4 鳥や動物の観察会	153人	61.7%
	5 自然に親しむゲーム	44人	17.7%
	6 森のハイキング	130人	52.4%
	7 自然についての講演会	65人	26.2%
	8 星の観察会	41人	16.5%
	9 キャンプ・宿泊の観察会	22人	8.9%
	10 その他	2人	0.8%
10 行事に参加しやすいのは何曜日ですか？	無回答	2人	0.8%
	1 月	3人	1.2%
	2 火	5人	2.0%
	3 水	13人	5.2%
	4 木	17人	6.9%
	5 金	3人	1.2%
	6 土	15人	6.0%
	7 日	59人	23.8%
	8 何曜日でも良い	66人	26.6%
	9 平日ならいつでも	31人	12.5%
	10 土・日・祝日	37人	14.9%
11 行事に参加しやすい時間帯は？	無回答	1人	0.4%
	1 早朝のみ	9人	3.6%
	2 午前中のみ	119人	48.0%
	3 午後のみ	3人	1.2%
	4 昼食をはさんで午前午後通して	77人	31.0%
	5 夕方から夜	0人	0.0%
12 この観察会に	6 どの時間帯でも良い	48人	19.4%
	無回答	1人	0.4%
	1 はじめて参加した	122人	49.2%
	2 とどき参加している	100人	40.3%
13 どのような交通手段でいらっしゃいましたか？	3 よく参加している	24人	9.7%
	無回答	2人	0.8%
	1 自家用車・タクシー	146人	58.9%
	2 徒歩・自転車	41人	16.5%
	3 公共交通機関	73人	29.4%
14 ここまでの時間はどれくらいでしたか？	4 その他	1人	0.4%
	無回答	0人	0.0%
	1 1時間以内	192人	77.4%
	2 1時間以上2時間以内	48人	19.4%
15 観察会講師等の育成研修会があれば？	3 2時間以上	6人	2.4%
	無回答	2人	0.8%
	1 受講したい	93人	37.5%
	2 受講したくない	24人	9.7%
	3 どちらともいえない	125人	50.4%
	無回答	6人	3.2%

問16集計結果

4/15

問5.6に「ちょっと短い」「ちょっと長い」というのがあれば答えやすいです。

説明がとてもわかりやすい。

親切に教えてくださり、和やかな雰囲気とても楽しかったです。また参加したいと思います。

みんなと話をしながら楽しかったです。

森の中ボランティアの方ありがとうございました。シラカバの水を吸う職感感激。

月に1回程度実施してください。

今日はとても寒いと終了時間がわからなかったので困った。

5/ 9

ありがとうございました。(2件)

新しい発見がありました。ゴミ拾いの後は気持ちがよい。

比較的きれいでしたが、大沢園地のまわりが缶ジュースやお菓子の袋等ありました。

ポカポカと気持ちの良いゴミ拾いでした。

ゴミ拾いを組み合わせた観察会はグッドアイデア。

講師はしゃべりすぎない方がよいのでは。

楽しかった。ありがとうございました。

それほどゴミは多くなかった。

楽しい観察会でした。そして今まで見たこともなく、知らないものを少しわかるようになったのがとても良かったです。

おもしろくでもまともな解説。でも今回は良かったですよ。

ボランティアの方がたくさんいてくれていろいろと教えてくださり楽しかったです。ありがとうございました。

未来の子供達のため子供達用の会があると楽しいと思います。

植物の名前の由来が聞けて興味深かった。

少人数の班で良かった。

6/ 6

ありがとうございました。

植物を知るだけでなく、同じグループ同士コミュニケーションがとれて楽しかった。案内の先生もとても楽しく説明くださりありがとうございました。

とても明るく楽しかったです。

矢島さんの解説が大変良かった。森林の大切さがよく得られた。

木に取り付けてある名札はスプリングワイヤにすべきです。

簡単な冊子資料がいただきたい。ありがとうございました。

知らない植物等を多く解説してもらえて大変に良かった。

来て良かったの一言につきます。ありがとうございました。

初めてで参考になった。

1つずつの名前があり難しかった。

初めての参加でしたが大変勉強になりました。楽しゅうございました。

説明がわかりやすかった。

グループに分けての観察。人数がよい。

7/ 1

ヒメサゼンソウを初めて見ました。説明もわかりやすく良かったです。

雨の中、丁寧な説明ありがとうございました。

川端先生の解説は大変よく勉強になりました。木々や草花に古い由来がおもしろかった。ありがとうございました。

8/ 5

どうもありがとう

空気がきれい。木に親しんだ。

ツルクルシを習えて良かった。

熱心な説明ありがとうございました。

とても楽しかった。メモった植物いくつ頭に入ったかな？川端先生の楽しいお話勉強になりました。

楽しい観察会でした。

参加者のお話も楽しい。講師のお話もあり。

初めての参加でしたが、説明がとてもおもしろく楽しく時間が短く感じた。ボランティアは佐々木幸夫さんです。

10/17

お天気もよくて、いろいろレンズを通して見る事が出来楽しかったです。

11/14

バラバラになって迷子になりそうでした。

自然の営み再発見。ボランティアレンジャーの皆様寒い中ありがとうございました。

野幌森林公園へは初めて来ました。北見から来てまだ4ヶ月目なので、いろいろ知りたいと思い参加しました。サワフタギの実、ルリ色の実、ツルリンドウの赤い色印象的でした。また来たいと思います。ありがとうございました。

12/ 2

寒かったけど楽しかった。

ありがとうございました。

天候によって臨機応変の対応の必要性を感じました。

またぜひ参加したい。

初めての参加。寒い中ていねいに説明あり、また参加したい。

今日は悪天候でしたが、少人数のグループ説明がとてもよかったです。

ありがとうございました。でも寒い。楽しかった。

1/13

いろいろ参考になりました。いざ自分が教える立場になるとどうやって教えればよいか、なにを話せばよいか。わかりやすかったです。もう少し他の生物との関連が知りたかった。生物多様性の面で、木々の見分け方を教えていただいたが、1回だけだと難しい。自分でも見ていきたい。寒い中熱心な説明ありがとうございました。

2/27

今回も新しい発見がありました。寒い中ありがとうございました。

青空の中でとても楽しかったです。

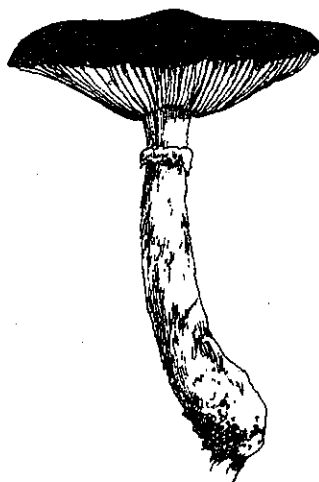
晴天に恵まれ素晴らしい。

季節が適当でなかったかも。

寒いところ、ご説明いただき、ありがとうございました。

3/26

今回も新しい発見がありました。ありがとうございました。



## ご一読ください

会報54号とともに同封しました、「レイラ」は新千歳空港で無料配付されています新千歳空港発着便のタイムテーブルです。

この冊子の9月号、マンスリースペシャルに、取材申し入れがあり、顧問の佐々木幸夫氏と研修部長の小林英世氏にお願いし掲載されたものです。

冊子編集者の希望は、野幌森林公園の紹介と、職場で働きながら活動する会員のインタビュー形式でした。

同封しました「レイラ」9月号、ぜひご一読ください。



1/13

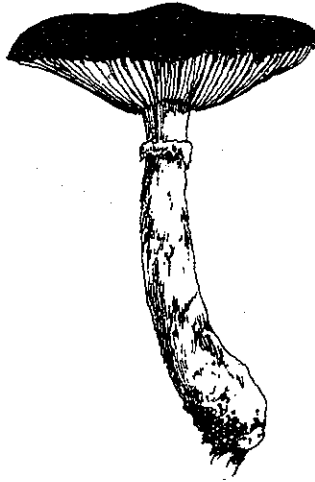
いろいろ参考になりました。いざ自分が教える立場になるとどうやって教えればよいか、なにを話せばよいか、わかりやすかったです。もう少し他の生物との関連が知りたかった。生物多様性の面で、木々の見分け方を教えていただいたが、1回だけだと難しい。自分でも見ていきたい。寒い中熱心な説明ありがとうございました。

2/27

今回も新しい発見がありました。寒い中ありがとうございました。青空の中でとても楽しかったです。晴天に恵まれ素晴らしい。季節が適当でなかったかも。寒いところ、ご説明いただき、ありがとうございました。

3/26

今回も新しい発見がありました。ありがとうございました。



## ご一読ください

会報54号とともに同封しました、「レイラ」は新千歳空港で無料配達されています新千歳空港発着便のタイムテーブルです。

この冊子の9月号、マンスリースペシャルに、取材申し入れがあり、顧問の佐々木幸夫氏と研修部長の小林英世氏にお願いし掲載されたものです。

冊子編集者の希望は、野幌森林公園の紹介と、職場で働きながら活動する会員のインタビュー形式でした。

同封しました「レイラ」9月号、ぜひご一読ください。

# 観察会研修会 情報

## 10月以降の自然観察会

### ◎秋の森の観察会 (公園事務所主催に協力)

10月15日(日) 10:00~14:30 (野幌森林公園大沢口集合)

(下見を10月14日 10:00~大沢口にて行います)

落ち葉を踏みしめながらの観察会です。途中昼食をとりますので弁当を持参してください。

### ◎ありがとう観察会 (公園事務所との共催)

11月12日(日) 10:00~14:30 (野幌森林公園大沢口集合)

(下見を11月11日 10:00~大沢口にて行います)

森に感謝の意をこめてゴミ拾いを兼ねた観察会です。昼食持参で多くの皆さんの参加をお願いします。

### ◎12月の森の観察会 (公園事務所主催に協力)

12月7日(木) 10:00~12:00 (開拓記念館前集合)

(下見を11月30日 10:00から、開拓記念館前集合)

雪の降り始めた森の観察会です。葉の落ちた木は樹形を確かめやすく、小鳥の姿も発見しやすい季節です。

自然観察会に関する問い合わせは

研修部長 小林英世 (TEL0123-36-3944) か、

事務局長 佐藤健一 (TEL011-592-4222) に連絡ください。

# 役員会報告

9月1日(金) 18:30～、環境サポートセンターにおいて第2回役員会が開催されましたので、報告事項並びに協議事項の概略をお知らせします。

## ◎各部と事務局の報告事項

1. 各部の活動経過報告がおこなわれましたが、各部とも遅滞なく年度計画に沿って事業がすすめられていること。
2. 各部の予算執行経過について、事務局から示された帳簿を役員が閲覧し経過状況を確認。
3. 事務局から会員動向(9月現在 会員数148名)が報告
4. 厚別北中(7/14、9/1)、野幌小学校(7/15)観察会ガイド依頼  
学校の教育内容の改革に伴い、総合的な学習や環境教育の重視によって、野外学習が取り入れられてきました。学校教育に積極的に関わっていくことも本会の役割でしょう。

## ◎協議事項

1. 各地との交流を進めていこうとの方針に沿って、7月には育成研修会に合わせて、小林研修部長を厚岸に派遣しました。今年度はもう一ヶ所、地方との交流を深めたいとの研修部の意向をうけ意見交流をしました。研修部を中心に具体化することになりました。
2. 依頼や要請のあった観察会に派遣する会員の交通費の支払いについて。
3. ボランティア・レンジャー協議会に関するホームページの閉鎖  
エゾマツ46号でお知らせしてあるように、会員樋口達郎氏のホームページ上に本会の紹介をしていましたが、6月中旬より諸般の事情によって、本会の紹介を削除し閉鎖することとしました。

今後、本会の紹介に関するホームページ発信計画については、役員会で、オープンで納得いく制作運営の在り方や個人のパソコン上での発信の是非を検討することとしました。

## おわびと訂正

エゾマツNo51号(1月15日発行)、21ページの会員名簿の訂正の中で誤りがありました。

### 訂正

52、桜井 洋子 札幌市中央区北6条西2.0丁目1-20-1102

53、桜井 明 札幌市中央区北6条西2.0丁目1-20-1102

と表記されていますが、正しい住所は、

札幌市中央区北6条西 2.2 丁目1-20-1102 です。

エゾマツNo53号(6月25日発行)、28ページの役員名簿、平成12年4月8日付け、の中で誤りがありました。

理事、研修部、 近久 善枝 ☎011-893-6309

理事、研修部、 小渕 修子 ☎011-761-3065

理事、研修部、 田中 利男 ☎011-572-3019

理事、研修部、 今村 ひろこ ☎011-896-4276

と表記されていますが、正しくは、

理事、研修部、 近久 喜枝 ☎011- 896-4276

理事、研修部、 小渕 修子 ☎011- 893-6309

理事、研修部、 田中 利男 ☎011- 761-3065

理事、研修部、 今村 ひろこ ☎011- 572-3019 です。

ここに改めて訂正するとともに、各会員ならびに各役員にご迷惑をおかけしましたことをおわび申し上げます。

## ❀❀❀ 編集後記 ❀❀❀

◆平成12年度の活動も折り返し点から、後半の活動に入りました。気温が下が  
り寒くなると自然とのふれあう行動が緩慢になりがちです。しかし、静かな森の  
たたずまいや、野鳥との出会いには格好の時期でもあります。今年度後半の活動  
にも積極的に参加していきましょう。

◆秋真っ盛り、長い冬の前の華やかな森林のたたずまいです。秋の日を浴び、紅  
葉を尋ね歩く風流な心の遊びの中から、自然との付き合いが深まれば、自然との  
共生も生まれてくることでしょう。

◆役員会は年間定例会が4回開かれます。総会で認められた役員は、会員の声や  
要望を吸い上げる大切な役割を担っています。また、無責任な任務放棄は役員とし  
てのあるべき姿ではありません。役員一同気持ちを引き締めていますので、要望  
・意見がありましたら、事務局（佐藤健一）までお寄せください。

◆次号のお届けは2001年1月中旬の予定です。毎号、編集時になると皆さんから  
の投稿を心待ちにしてる状態です。会報誌「エゾマツ」は会員の皆さんに支えら  
れて成り立っています。広報部へのご協力をお願いします。

北海道ボランティア・レンジャー協議会  
会報誌「エゾマツ」54号 2000.10.15 発行  
発行責任者 川 端 功 治

